

## 学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]

### アンケート回収率

生徒 98.4% 保護者 18.1% 教員 100%

#### ○生徒

昨年度に比べて、肯定率が4ポイント以上の増減があった項目

「学校に行くのが楽しい」76.6%→81.1% (+4.5%)

「授業は、わかりやすく楽しい」83.9%→79.7% (-4.2%)

「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」65.9%→77.4% (+11.5%)

「先生は授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」91.9%→95.4% (+4.3%)

「学校は生徒一人一台端末（クロームブック）を効果的に活用している」85.6%→93.8% (+8.2%)

「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」83.7%→89.5% (+5.8%)

「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」82.3%→87.0% (+4.8%)

「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」83.1%→87.3% (+4.3%)

「授業などで、将来の進路や生き方について考える機会がある」85.6%→89.8% (+4.2%)

- ・18項目のうち、8項目で肯定的回答が大きく上昇した。
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が11.5%上昇しており、その理由として新学習指導要領の実施、PBLの導入やICT機器の効果的な活用のための教材開発等が考えられる。
- ・「学校は生徒一人一台端末（クロームブック）を効果的に活用している」が8.2%上昇しており、その理由としてリーディングGIGAハイスクールとして、ICT機器やアプリを積極的に活用したことが考えられる。
- ・「授業は、わかりやすく楽しい」は肯定的回答全体としては4.2%減少しているが、「ややあてはまる」が56.5%→41.1%となっている一方「よくあてはまる」が27.4%→38.5%と大きく増加している。このことから、強くそう感じている生徒が増える一方、全体としては減少している原因を、今後更に詳しく検証して取組みに反映させていきたい。

#### ○保護者

肯定的回答が90%以上であった項目

「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」

「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」

「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」

「先生は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」

「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」

「先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている」

「学校の生徒指導の方針に、共感できる」

「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」

「文化祭や体育祭・宿泊行事などの学校行事は、積極的に参加 できるよう工夫されている」

- ・ 13 項目のうち、9 項目で肯定的回答が 90%以上あった。
- ・ 「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」が 93.2%については、「溶接甲子園」で 4 位入賞、「第 1 種電気工事士試験」への取組など、従来から力をいれてきた各種コンクールや資格試験への取組みに加えて、デジタルを活用した学びへシフトするなど、生徒の実情を踏まえた教育内容が評価されたことが考えられる。
- ・ 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が 97.6%と高い数値になっていることについては、進路指導課と各学年が連携を図りながら、保護者への進路説明会や生徒の工場見学・大学等の見学を積極的に行っていることなどが評価されたのではないかと考える。

#### ○教員

肯定的回答が 85%以上であった項目

「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」

「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」

「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速 に対応することができている」

「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」

「生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」

「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」

「学校予算は、一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている」

「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」

「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」

「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知 に努めている」

- ・ 29 項目のうち、10 項目で肯定的回答が 85%以上あった。
- ・ 「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」が 88.0%については、放課後や長期休業中に目的意識のある生徒を中心にコンクールや資格試験指導を行っていることが考えられる。
- ・ 「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」が 94.0%については、電子黒板や 1 人 1 台端末をより効果的に活用するためと考えられる。
- ・ 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が 94.0%については、異なる教科においても ICT 機器の活用方法を参考にするためと教員ひとり一人が授業力向上に意識が高まっていると考えられる。
- ・ 一方で「学校として、部活動の活性化について工夫している」28.0%、「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」46.0%、「この学校では、清掃がいきとどいている」56.0%など相対的に低い自己評価となっている項目については、今後の改善課題として取り組む必要がある。